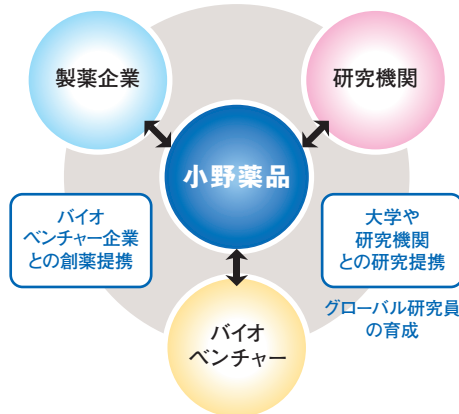


オープン・イノベーション

■ オープン・イノベーションとは

「オープン・イノベーション」とは、企業内部と外部の技術や知見を組み合わせ、革新的な成果につなげる活動のことです。医薬品業界においては、国内外のバイオベンチャーや大学および研究機関などの創薬シーズ(種)や世界最先端の技術を積極的に利用し、画期的な新薬の開発を目指す取り組みです。従来は、自社単独で研究開発を行うことが主流でしたが、競争の激化や新薬創製成功率の低下、研究開発費の増大など、医薬品企業を取り巻く環境は厳しさが増しており、このような取り組みの強化の重要性が高まっています。



■ 当社のオープン・イノベーションへの取り組み —— 取締役 常務執行役員 研究本部長 川津 和一十



当社は、1968年に企業では世界初となるプロスタグランジン(PG)の全化学合成に成功し、その5年後にはPG関連の医薬品を世界で初めて上市したという歴史を持っています。このPGの研究も元をたどれば、のちにノーベル医学・生理学賞を受賞した海外の研究者が発見したPGという物質を、自社の医薬品開発の研究テーマとして取り入れたことがきっかけです。最近では多くの企業が進めているオープン・イノベーションですが、当社では約半世紀も前から取り組んできた実績があり、昨年世界に先駆けて発売しました抗PD-1抗体「オプジーボ」も、京都大学との共同研究から見出された薬剤です。

昨年、このようなオープン・イノベーションをさらに推進するために、新しい形の産学連携ネットワーク「オリエンタム・イノベーション®」を構築しました。このネットワークは、当社が見出した独自性の高い新規化合物を最先端の知見や技術を有する大学・研究機関に提供することで、医薬品としての用途をこれまで以上に迅速に探索するものです。すでに東北大学および東京大学との連携をはじめ、複数の取り組みを開始しました。オリエンタム・イノベーションに加え、今後も、国内外で独自の研究ネットワークを構築することでオープン・イノベーションを推進し、医療ニーズを満たす革新的な医薬品の創製につなげていきたいと考えています。